

景気動向調査

期間：2025年9月～12月 作成：川西市商工会

【小規模企業景気動向調査】（令和7年12月期調査 全国商工会連合会 1月23日発表分 参照）

<産 業 全 体>

◇…業種間に差はあるものの、年末需要が追い風となった小規模企業景況…◇

12月期の産業全体の景況は、売上額・採算・業況DIがわずかに上昇、資金繰りDIは不変であった。物価高や人件費上昇によるコスト増が続く中、価格転嫁や自助努力で売上維持・微増している事例も見られた。業界・業種間での景況感は、年末需要の影響を受ける業種は好調な一方、機械・金属製造業や建設業では先行きに不透明感が残る結果となった。

<製 造 業>

◇…食料品関連がけん引、回復基調への転換が期待される製造業…◇

製造業は売上額DIが大幅に上昇、採算・業況DIは小幅に上昇し、資金繰りDIはわずかに上昇した。全DIが10月期調査から2期連続かつ前年ベースでも上昇しており、物価高騰や人件費増の影響に懸念があるも、持ち直しの動きが一部で見られた。全体として原材料価格の高騰に苦しむ声が散見され、機械・金属関連は業況を除くDIが低下したが、食料品及び繊維関連は季節需要等により好調に推移。業種によって明暗が分かれた。

<建 設 業>

◇…前月から一転して全DIが低下、持続的な改善に課題が残る建設業…◇

建設業は、採算DIが若干に低下、売上額・資金繰り・業況DIは小幅に低下した。前年ベースでも全DIが低下。一部で金利上昇を背景とした新築住宅の駆け込み需要等により受注が増加したとの声もあるが、資材高騰や人手不足に苦しむ事業者が多い状況である。特に、人手不足は工期の遅延や外注費の増加に繋がり、採算の悪化を招いており、引き続き人材の確保や省力化、業務効率化の取り組みが急がれる。

<小 売 業>

◇…年末需要で一時的な持ち直しも、先行き慎重な小売業…◇

小売業は、売上額・資金繰りDIがわずかに上昇、採算・業況DIは不変であった。耐久消費財関連は、季節需要等の影響により売上額DIで持ち直しを見せた。食料品関連は、年末需要による売上増加の声が一部で見られたが、仕入価格の上昇分を思うように価格転嫁できない事業者も多く、採算改善にはなお時間を要する。衣料品関連は、年末需要がある一方で、顧客の節約志向も継続しており、資金繰りDIのみの上昇となった。

<サービ業>

◇…年末需要が下支えし、持ち直しの兆しが見られるサービス業…◇

サービス業は、採算・業況DIが小幅に上昇、売上額・資金繰りDIはわずかに上昇した。旅館関連は、一部で人手不足による稼働率低下が見受けられたが、年末帰省や観光需要の高まりにより、大幅な業況悪化には至らなかった。クリーニング関連は全DIが上昇。売上額DIは7月期以来6か月ぶりにマイナス圏を脱した。理・美容関連では、年末需要の影響を受けて好調との声が散見され、売上額DIは8月期ぶりに0ポイントを上回った。

産業全体					製造業					建設業				
DI	11月	12月	前月比	前年 同月比	DI	11月	12月	前月比	前年 同月比	DI	11月	12月	前月比	前年 同月比
売上額	6.7	8.2	1.5	▲ 1.1	売上額	8.8	14.4	5.6	4.7	売上額	11.3	9.0	▲ 2.3	▲ 3.5
採算	▲ 17.4	▲ 16.5	0.9	▲ 0.1	採算	▲ 19.3	▲ 16.5	2.8	1.7	採算	▲ 14.5	▲ 16.1	▲ 1.6	▲ 0.3
資金繰り	▲ 14.4	▲ 14.3	0.1	0.4	資金繰り	▲ 14.8	▲ 13.6	1.2	1.9	資金繰り	▲ 12.6	▲ 16.6	▲ 4.0	▲ 0.3
業況	▲ 13.7	▲ 12.5	1.2	0.3	業況	▲ 13.6	▲ 11.0	2.6	3.3	業況	▲ 9.6	▲ 11.8	▲ 2.2	▲ 1.4

小売業					サービス業				
DI	11月	12月	前月比	前年 同月比	DI	11月	12月	前月比	前年 同月比
売上額	2.8	4.7	1.9	▲ 1.4	売上額	3.9	4.5	0.6	▲ 4.6
採算	▲ 19.7	▲ 19.6	0.1	▲ 1.0	採算	▲ 16.3	▲ 13.9	2.4	▲ 0.8
資金繰り	▲ 17.4	▲ 16.0	1.4	0.9	資金繰り	▲ 12.8	▲ 10.9	1.9	▲ 0.7
業況	▲ 17.9	▲ 17.9	0.0	0.5	業況	▲ 13.6	▲ 9.0	4.6	▲ 1.0

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 12月24日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。
 景況等…企業の業況判断は、足もとでは改善しているが、先行きは慎重な見方となっている。
 需要…個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、増加計画にある。
 生産…生産は、横ばい圏内で推移している。
 雇用…雇用・所得環境は、緩やかに改善している。
 金融…倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（12月15日発表分）

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。
 個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。
 こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。
 消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

① 景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R7.3	R7.6	R7.9	R7.12	R8.3(予測)
全産業	12	15	15	19	9
大企業	19	19	21	21	16
中堅企業	9	19	21	22	7
中小企業	10	11	11	17	7
うち製造業	7	10	13	15	7
うち非製造業	19	21	17	24	12

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（12月）について
市内動向

市内の12月の景気は、依然として力強い回復には至っていないものの、分野によっては底打ち感や穏やかな持ち直しの兆しもみられるなど、改善と停滞が混在する状況となっている。

個人消費は物価高や金利上昇の影響で慎重姿勢が続き、市内需要は総じて伸び悩んでいる。このため、商圈を周辺地域へ広げる動きや、既存顧客への需要を確実に取り込むなど、各事業所が工夫を凝らしながら事業活動を維持している。

一方で、業種を問わず原材料及び仕入価格の上昇が継続しており、先行きに対する不透明感と閉塞感は、地域経済の重荷となっている。

1月以降については、多くの事業所が「不変(現状維持)」と回答しているものの、小売・サービス業の一部では売上や収益の改善を見込む声もある。しかし、人手不足及び価格転嫁の課題は依然として残っている。

製造業

製造業では、生産は微減から横ばいの状況が続いており、全体として依然として大きな改善が見られない事業所が多い。一方で、受注や引き合いの面では、底打ち感や回復の兆しを感じている事業所も徐々に増えており、需要は穏やかに持ち直しつつあるとの声も聞かれた。ただし、原材料価格やエネルギーコストの高止まりに加え、人件費の上昇が経営を圧迫しており、価格転換が十分に進まない事業所も多いことから、収益改善に苦慮しているなど、力強い回復とはいえない状況が続いている。

建設業

建設業のうち住宅建築分野では、物価高や住宅金利の上昇により個人の消費停滞及び建築費の上昇の影響で市内新築住宅案件数は低調に推移しており、リフォーム需要での受注でしのいでいる。大きな回復基調にあるとは言えない事業所が多い。市内における需要の伸び悩みから、従来の商圈内だけでは仕事量を確保しきれず、周辺市町や広域エリアでの受注へと活動範囲を広げる動きが続いている。

土木建設関連では、公共工事や住宅建築以外の需要が一定の支えとなり先行き感是不安定ながらも踏ん張っている感が強い。

小売・サービス業

クリスマス・年末商戦、さらに商品の値上げの影響もあり、売上高は好調となった事業所が多く見られた。一方で、年末年始が大型連休となり旅行や帰省など外出が増え、来店が分散した結果、例年ほど売上高は伸びず「不変」と回答した事業所もあった。

また、1月以降は仕入れ価格及び人件費の上昇により、一部の事業所では収益状況の悪化が懸念されているものの、多くの事業所は現状維持を見込んでいる。